



奉告祭

10月17日(木)

献上する米と粟が収穫できたことを感謝奉告する「奉告祭」。諏訪神社で執り行われ、地域住民や関係者約30人が出席しました。本町で執り行われた最後の祭事で、収穫された米と粟を神前に供え、玉ぐしを捧げました。



御田植祭

6月22日(土)



「御田植」では早乙女、田男の衣装を身にまとった津奈木小学校の児童男女14人が参加。林夫妻をはじめとする代表者4人と一緒に献穀田に入り、苗を植え付けました。

10月

9月

8月

7月

6月



たくさんの協力に感謝

献穀田の整備に始まり5月の清祓祭・播種祭、6月の御田植祭、9月の抜穂祭など滞りなく祭事が執り行われほっとしています。ことしは、夏の猛暑や台風10号の襲来もあり稲の生育を心配しましたが、無事に大きく育った稲を収穫することができました。献穀事業に賛同いただいた地区の人たちをはじめ、多くの人にご支援・ご協力いただき感謝しています。心よりお礼申し上げます。(林賢二・恵子)

献穀献納式

10月28日(月)

11月23日の新嘗祭で使われる米と粟を各都道府県から選ばれた農家が直接献納しました。林賢二さんは「天皇陛下を拝見拝聴でき、緊張と感動を受けました。短い時間ではありましたが、生涯心に残る貴重な経験をすることができました」と話していました。



↑抜穂祭には津奈木中学校の生徒男女16人が田男・早乙女の衣装を着て、一緒に収穫を体験しました

抜穂祭

9月28日(土)

大きく育った稲を代表者が鎌で丁寧に収穫。刈り取られた稲は神前に備えられました。林賢二さんは「皆さまのおかげで無事に栽培できたことを大変うれしく思います」と話していました。

